

イネ作の連続的「規模別経営指標」の把握

近藤 穰（関東ブロック）

私どもコンサルタントや生産農家が、経費や労働時間を「平均的な経営指標」と比較することは、生産諸要素の問題点の発見をするため必要なことである。しかし粗収益、経費、所得には地方性や栽培法の差も関係し、簡単に良否の判断が出来るものでもない。実態／指標の比較は問題点発見のほんの1里塚に過ぎない。したがって経営指標との対比は簡便に瞬時にできること、また経営規模の変化に応じ連続的にできることが望ましい（ノート型パソコンなど現場で瞬時に）。

今回、農水省の規模別経営統計の完備しているイネ作について、損益計算（P/L）の要素と労働時間のみが対象だが、米価の今後の推移も折り込み可能なよう上記目的の計算表を作成してみた。該当経営の作付け面積＝反面積を「77.7反」の項に入れるだけで、規模見合いの指標が出る。これにH18年度対比の米価変動や該当経費変動の指数を掛ければ、一応はH20年であろうが、22年であろうが指標が自動的に出る。あとは経営の実態数字を置いて比較し、良否の判断をすればよい。質問や提案により、より良いものに改善したいと望んでいる。

しかし本HPではPDF化しており、「77.7」の数値に新たに該当数字を入れられない。その他の自動計算もできない。このため指標として活用したい方は、お手数でも近藤にメールをいただければ（mkondou@vega.ocn.ne.jp宛て）、原表をメール添付で送信します。あるいは $y(\text{答}) = 77.7a + b$ の方程式なので77.7に該当数値を、aとbにaとb下欄の数値を入れ、電卓などで手計算して欲しい。

イネ作 農水省全国平均指標(H18)に基づく損益簡易診断

注: グレーの欄と書き込み欄以外はいじるとソフト(特にピンクの部分)が乱れます。

本表は、各要素について「規模別傾向式」を算出し、イネ作のどんな面積規模でも自由に「指標値」を求められる。±平均誤差は個人差の大きさを意味する。

77.7反(10a)と入力してある黄色箇所には当経営の面積を入力。 グレー事例数字を消してスタートしてください。 米価の動きを反映したいときは米販

1. 粗収益・経費・所得(単位:千円) 適用範囲250反以下 売収入にH18年対比の指数を掛ける。 府県収量の格差を反映したいときも、米販売収入に倍数を掛ける。

x耕作面積(反)	77.7	全体収量	28,127	60kg価格	16.98	10a粗収益	115.2	全体労働H	1680.0	家族労働H	1680.0	1時間所得	1,789
	全国平均	指標・kg	41,551	指標・千円	12.50	指標・千円	114.0	指標	1300.8	指標	1236.6	指標・円	2,705
		指標比倍率	0.677	指標比倍率	1.358	指標比倍率	1.010	指標比倍率	1.292	指標比倍率	1.359	指標比倍率	0.661

面積X=10a単位	方程式 =	X	x	a	+	b	=	科目別金額		当経営の実績分析		構成比%		判定	
科目	a	b	指標金額	平均誤差	米価修正	収量府県修正		当経営	指標対倍率	指標	当経営	絶対金額	構成比		
米価・地方修正			20年・島根県		x0.9752A	Ax0.960									
粗収益		下記合計	8,858.8		8,639.1	8,207.1		8,950.3	1.091	100.00	100.00	良		問題点の整理	
米販売収入	113.87	-188.19	8,659.5	± 4.8%	8,444.8	8,022.5		7,959.8	0.992	97.75	88.93	並	良	単収・単価(品質)・経路	
副産物	2.54	1.90	199.3	± 15.9%	194.3	184.6				2.25				自家利用・販売	
自家消費								85.0			0.95	良		適正・過大	
補助金他								905.5			10.12	良		発生原因	
経費(紫=変動費)		下記合計	5,193.8		5,065.0	4,862.4		5,945.3	1.223	59.25	66.43	過多	やや過多		
種苗費	1.42	37.30	147.6	± 7.3%	144.0	138.2		61.6	0.446	1.68	0.69	良	良	自家・育苗センター	
肥料費	7.32	-2.62	566.1	± 6.9%	552.1	530.0		1,339.4	2.527	6.46	14.96	過多	過多	単価・ムダ	
農薬費	5.32	55.94	469.3	± 8.7%	457.7	439.4		614.7	1.399	5.35	6.87	過多	やや過多	単価・IPM(総合的病虫害管理)	
光熱動力費	3.97	1.71	310.2	± 7.3%	302.5	290.4		247.6	0.853	3.54	2.77	良	良	油単価・ムダ	
諸資材費	2.29	-12.25	165.7	± 18.9%	161.6	155.1		288.9	1.863	1.89	3.23	過多	過多	単価・ムダ	
リース料・料金	5.69	84.14	526.3	± 9.3%	513.2	492.7		償却費と合算し評価		6.00				単価	
公租・公課	1.36	26.35	132.0	± 10.4%	128.7	123.6		81.5	0.659	1.51	0.91	良	良	内容	
建物・農機・車	6.26	35.88	522.3	± 10.8%	509.3	489.0		1,048.3	2.144	5.96	11.71	過多	過多	機械の保険・修理	
償却費	14.90	2.91	1,160.6	± 24.7%	1,131.9	1,086.6		1,469.7	1.353	13.24	16.42	良(リース含)	良	有効利用	
支払利子	0.55	11.06	53.8	± 43.1%	52.5	50.4		53.3	1.058	0.61	0.60	並	良	借入残・金利	
支払地代	9.66	-101.94	648.6	± 13.8%	632.6	607.3		525.7	0.866	7.40	5.87	良	良	借入条件	
その他	5.86	35.91	491.2	± 14.3%	479.0	459.9		214.6	0.467	5.60	2.40	良	良	ムダ	
所得			3,665.0		3,574.1	3,344.7		3,005.0	0.898	40.75	33.57	並	やや少		

2. 年別の60kg玄米価推移										H9~18年(15年除く)傾向		a = -323.48	b = 18,860.83	方程式	a	b
米価傾向値	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	方程式	a	b	10a粗収益	116.39	-184.46		
60kg価格推移	13,038	12,715	12,391	12,068	11,744	11,421	11,097	10,774	全体収量kg	540.65	-457.38	全労働時間	14.87	199.41		
19年基準倍率	1.0000	0.9752	0.9504	0.9256	0.9008	0.8760	0.8511	0.8264	玄米60kg価格	0.00	12.93	家族労働H	12.83	210.36		

3. 作業別労働時間

X耕作面積 77.7

稲作にかぎらず、農家全体に労働時間がかまれてない。「適正はこの程度」と示す必要あり。

X = 10a単位	方程式 =	X x	a +	b =	作業別時間		構成比%		判定		問題点の整理
科目	a	b	指標時間	平均誤差	当経営	指標対倍率	指標	当経営	作業時間	構成比	
合計作業時間		下記合計	1,300.8			0.00	100.00	100.00			
育苗	2.91	27.06	253.2	± 12.9%		0.00	2.86				共同か個人か
耕起・整地	1.77	26.93	164.5	± 4.7%		0.00	1.86				機械の能力・区画
田植え	2.06	38.00	198.1	± 6.0%		0.00	2.24				機械の能力・区画
除草	0.55	17.44	60.2	± 10.4%		0.00	0.68				方法
防除等管理	2.10	89.31	252.5	± 6.8%		0.00	2.85				動噴・ヘリ
刈取・脱穀	1.61	35.60	160.7	± 3.7%		0.00	1.81				機械の能力・区画
他・直接作業	1.94	60.99	211.7	± 9.2%		0.00	2.39				
うち家族作業時間	11.61	334.52	1,236.6								

4. 10a収量の地方格差 (H18年)

単位: kg

県名	平年作	倍数	県名	平年作	倍数	県名	平年作	倍数
全国平均	529	1.000	富山	535	1.011	島根	508	0.960
北海道	532	1.006	石川	517	0.977	岡山	526	0.994
青森	580	1.096	福井	517	0.977	広島	523	0.989
岩手	533	1.008	山梨	547	1.034	山口	505	0.955
宮城	530	1.002	長野	623	1.178	徳島	474	0.896
秋田	573	1.083	岐阜	488	0.922	香川	499	0.943
山形	594	1.123	静岡	523	0.989	愛媛	498	0.941
福島	537	1.015	愛知	506	0.957	高知	459	0.868
茨城	520	0.983	三重	500	0.945	福岡	501	0.947
栃木	539	1.019	滋賀	518	0.979	佐賀	530	1.002
群馬	494	0.934	京都	511	0.966	長崎	474	0.896
埼玉	495	0.936	大阪	493	0.932	熊本	515	0.974
千葉	531	1.004	兵庫	504	0.953	大分	503	0.951
東京	405	0.766	奈良	513	0.970	宮崎	492	0.930
神奈川	483	0.913	和歌山	493	0.932	鹿児島	479	0.905
新潟	539	1.019	鳥取	523	0.989	沖縄	309	0.584

1p、2pとも農水省HP「経営統計調査」の品目別「米生産費調査」の規模別数値を最小2乗法で処理。勘定科目や作業分類の詳細が不明な場合もいくつかあり。B/S関係の資料は出ていない。

油や肥料も急騰しているが、残念ながらこれを反映した傾向式になっていない。このばあい50%の値上がりであれば、該当経費のaとbに1.50を掛ければ新傾向値とピタリと合う。

「指標」はあくまで規模別の「平均値」である。±は平均誤差で実際にはもっと大きな上下差がある。±が大きいほど努力次第で大きな改善効果が期待できる科目ということになる。

経営は生き物で、毎年作付面積も変化する。5ヶ年計画などを作るばあい、規模を変えて打ちこめば「指標」に沿った粗収益、経費、所得もつかめる…5枚打つ必要がある。

固定費とされるものでも、指標では規模とともにゆっくり増加することとなっている。単年では固定費であっても、長期的には生産力とともに増える性格のものと理解すべきだ。

分からない点があれば…

mkondou@vega.ocn.ne.jp へ連絡ください。